

帰国生 入試情報

効果的な帰国生入試小論文(作文)・面接対策

～日常的に見聞きし、知り、考え、表現する練習を

米日教育交流協議会・代表 / 河合塾北米事務所・アドバイザー 丹羽 肇人

帰国時に高校や大学に入学する場合、避けることのできないのが入学試験です。帰国生入試という特別入試を受験できるものの、付け焼き刃的な学習では失敗してしまうこともあります。それは小論文(作文)や面接という対策の立てにくい試験が課されるからです。ここでは、帰国生入試の小論文(作文)・面接対策について説明させていただきます。

小論文(作文)・面接の課題と求められる力

帰国生入試で小論文(作文)や面接を課す高校や大学が多いのはなぜでしょうか。それは、学科試験のみでは計ることのできない学力、人柄、意欲などを確認するためです。また、学科試験では、滞在国や滞在時期・期間などによって学力差が生じてしまうので、それを調整するという目的もあります。したがって、帰国生入試では小論文(作文)や面接のみで合否を決定する学校もあるほどですし、学科試験とともに課される場合でも学科試験の1科目に相当するほど重要なのです。

小論文(作文)の出題傾向は様々ですが、大きく分けるとテーマ型と課題文型とに分かれます。高校入試では小論文ではなく作文として課されるケースが目立ち、多くはテーマ型です。テーマ型は、「〇〇について自由に論じなさい。」、「△△についてあなたの考えを述べなさい。」というような形式の出題で、与えられたテーマに関する知識と、それについて考える力が必要です。課題文型は、文章を読み、いくつかの設問に答える形式の出題で、筆者の意見を読み取る力と筆者の意見について考える力が求められます。そして、共通して必要な力は自分の意見を論ずる(=表現する)力です。

面接には、受験生一人一人に対して行われる「個人面接」と、複数の受験生に対して行われる「グループ面接」があります。後者では、面接官の質問に答えるのみではなく、積極的に発言をすることや他の受験生の意見をよく聞くことも求

められます。

質問内容は、受験生のプロフィール、住んでいた国や地域、現地校のことなど海外生活での経験、受験校の志望理由や入学後にやりたいこと、卒業後の進路など多岐にわたり、質問のされ方も多種多様です。独特の緊張感のある面接試験場で、どんな聞かれ方をしてもスムーズな応答ができるようにするためには、聞かれそうな質問に対し、自分の考えを自分の言葉で答えられるように準備する必要があります。これは、入試本番直前ではとても間に合いません。

特に重要なのは、「その大学・高校に入学したい。」という気持ちを面接官に伝え、「私の大学・高校に入学してほしい。」と思ってもらうことです。そのためにも、受験する学校の特長を把握し、それを志望理由や将来の進路と結びつけて説明することが大切です。

この他にも面接では、最近起こった日本のできごとや国際情勢などのニュース、環境問題や高齢化社会など現代社会の問題点などについても聞かれます。また、「海」と聞いてイメージすることは?とか、自分を色に例えると何色か?などというような質問をする学校もあります。大学入試の場合には、受験学部(学科)の専門分野に関する興味や関心、知識を問われることもあります。

小論文(作文)・面接に効果的な対策は?

実は、このような面接の質問は小論文(作文)の課題とも共通しています。つまり、面接の質問内容と小論文(作文)の課題は本質的には同類なのです。また、求められる力も同様です。つまり、見聞きしたり読んだりしたことに対する自分の意見を表現する練習を積む必要があります。そのためには、日常的にニュースをキャッチしたり、幅広い分野に関する本を多読したりすることが大切です。大学入試においては、受験学部・学科の専門分野に関するニュースに注目し、専門分野に関する書籍(新書版や専門雑誌など)を読むことも重要です。また、①受験校の志望理由。②将来の目標。③自分自身の興味や関心。④自分の住んでいる国や都市。⑤国際社会や日本社会の問題。などについて、日常的に親子で会話することも効果的です。このように帰国生入試の小論文(作文)や面接対策には、日々の積み重ねが受験時の実力の源になるのです。

なお、本稿においては一般的な傾向と対策についてのみ説明していますので、個別のケースについてはお気軽にお問い合わせください。

(電話：248-346-3818、E-mail: info@ujeec.org)



執筆者のプロフィール

河合塾で十数年間にわたり、大学入試データ分析、大学情報の収集・提供、大学入試情報誌「栄冠めざして」などの編集に携わる。また、大学受験科クラス担任として進学指導を行なう一方、進学講演を通じて高校生や保護者に大学入試情報を提供。また、米国・英国大学進学や海外サマーセミナーなどの国際的企画も担当。

1999年に米国移住後は、CA、NJ、NY、MI州の補習校・学習塾講師を歴任。2006年に「米日教育交流協議会(UJEEC)」を設立し、日本での日本語・日本文化体験学習プログラム「サマー・キャンプ in ぎふ」など、国際的な交流活動を実践。さらに、「河合塾海外帰国生コース北米事務所」のアドバイザーとして帰国生大学入試情報提供と進学相談も担当。また、デトロイトりんご会補習授業校講師も務めている。